



都市計画課長
のういら
加藤 裕一

市民一人一人が関心を持つことが大切

コミュニティ交通は、多くの人が乗ることで初めて価値が出るものですが、乗らない人からも支持されることが重要です。

例えば高齢者が一人で通院できるようにすれば、本人だけでなく車で送迎する人も助かります。また、乗らない人にも「高齢者が元気に活動できるようになるのはよいことだ」と感じてもらうことが大切です。

コミュニティ交通は、単にバスなどを「走らせる」ことが目的ではありません。何を目的とし、だれのために、どのような位置づけで運行するのかを、きちんと地区の皆さんと議論し、「真のニーズ」を本音の部分でとらえることが重要です。

現在、アンケートやワークショップなどでさまざまな意見を聞いた上で、コミュニティ交通が必要な地域には、地域と運行事業者と行政が力を合わせて運行しています。

コミュニティ交通は、地域住民にとって大切な暮らしの足です。これから将来にわたって存続させるために、皆さん一人一人がもっと関心を持ち、運行を支える地区の一員になって育てていってほしいですね。



コミュニティ交通。
それは未来に向けて、市民一人一人が育てていく「地域住民の暮らしの足」なのです。